

WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

2022年5月号

NO. 249

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

『野川下りシリーズ』②小金井あたり ここも五月、あそこも五月

「野川下りシリーズ」の第2回は、新小金井街道の貫井大橋から野川に沿って小金井市、三鷹市を歩きます。川幅も野原も広くなり、視界が開けました。その爽やかな緑と空気を味わいましょう。

今回、歩く川の距離は約5kmですが、25の橋が架かっています。それぞれに素朴さと懐かしさがあります。一方、武蔵野公園、野川公園は、高度成長下に生まれた芝生広場を中心とする開放型公園です。多くの木や草が、それぞれ茎や枝を“らしく”伸ばし、“らしく”葉を茂らせ、花を咲かせています。

242回WHOウォーキングのご案内

期 日：2022年5月28日(第4土曜日)

(先月号の予告で20日(第4土曜日)と誤記しました。訂正いたします。)

コース：JR 武蔵小金井駅－滄浪泉園－貫井大橋－天神橋－新小金井橋－都立武蔵野公園(くじら山・樹木の苗圃)－二枚橋－都立野川公園(自然観察園・わき水広場)－御狩野橋－バス停・龍源寺－<バス>－JR 三鷹駅

集合・出発：JR 武蔵小金井駅南口 10:00

解 散：JR 三鷹駅南口 14:30頃

携行品：名札、マスク、弁当、飲料、雨具、4月にお渡したパンフレット『野川マップ』は、シリーズ終了までご持参ください。初回参加の方にはお渡しします。

参加費：300円。入場料100円。初参加の方

は、名札代200円。(必ず着用)。

みどころ

滄浪泉園：明治、大正期に経済人、外交官として活躍した波多野承五郎の別荘、その名は元首相犬養毅による。敷地は当時の1/3になったが、深山の趣がありフデリンドウ、ニリンソウ、キンラン、ギンランも咲き、野鳥も多種飛来してさえずる。

都立武蔵野公園：野川に沿って残る草原や雑木林を配した公園として昭和39年に開園した開放型公園。面積229千㎡。元々東京都が各公園や街路に植栽する苗木を育てる苗圃をもっていた。現在もケヤキ、マテバシイなど、1万本(株)を育て、樹木の一時預かりも行なっている

都立野川公園：武蔵野公園に隣接し、昭和55年開園した開放型公園。面積は約390千㎡。東八道路で分断され南側が樹林、北側

が芝生広場となっている。戦前の中島飛行機の跡地。戦後は国際キリスト教大 (ICU) のゴルフ場。今もその面影がある。

自然観察園:武蔵野の貴重な植物群落の学習の場として昭和 63 年に開園。自然がそのまま観察できるように木立の中を木道が巡る。きんらんの里、かたくり山、ほたる池、バードサンクチュアリなどがある。

コロナ対策の継続

蔓延防止が解除になっても、感染が無くなったわけではありません。当分は、これまで通り用心しましょう。マスクは着用して、必要に応じてははずしてください。

WHO 4 月例会の報告

「野川下り」シリーズ第 1 回 武蔵國分寺、小金井の源泉から

「野川下り」シリーズが始まりました。快晴の 4 月 23 日、JR 西国分寺駅に集合したのは、54 人。ほぼ想定内。初参加の方が 9 人には驚きました。恋ヶ窪用水に沿います。これは玉川上水から 1657 (明暦 3) 年に分水し、野川の源泉のひとつ姿見の池に注いでいます。水路の幅は 1m 弱ですが、川底まで明るい陽光が差し込み小さな魚たちが動き回っていました。姿見の池の湧き水は確認できませんでした。池にまつわる悲恋の伝説もあります。何かの事情で池は埋められ、地図から消えていましたが、復元した後に東京都の「名湧き水 57 選」に指定されました。

東へ進むと、大きな樹木の森に突き当たります。ここは 20 万㎡という日立製作所中央研究所の敷地です。銀行家の別荘でしたが、昭和 17 年に日立が購入し、森を守り、複数ある湧き水を大池に集め、これが、野川的主要水源のひとつとなっています。毎年春秋の公開は中止されています。代わりにゆかりのある樋口順英さんに解説をお願いしました。

國分寺駅付近で JR 線路の南側に渡ると、一帯は南向きの斜面の國分寺崖線、いわゆるハケです。典型的な地形が判るのが、国の名勝に指定されて今年が 10 年目の殿ヶ谷戸庭園。しかし 50 人超えの昼食はムリ。予定通り隣接の子ども公園で 11 時から 45 分の

昼食時間としました。

食後、庭園を自由散策。大正初期に実業家が建造。昭和 4 年に三菱家の所有となり、築造整備された回遊式林泉庭園。武蔵野台地傾斜地にあり、國分寺崖線の崖地と崖下から清水が湧出しています。東京都が買い上げ、都立庭園として管理、改善をしています。筧に勢いがある竹林や岩組みの水の流れに涼を感じつつ時を過ごしました。54 人は意気盛ん、最後まで歩くことになり、長い坂を下り鞍尾根橋から念願の野川につきました。日立構内から流れ出た水の最初の押切橋から、ここまで、8 橋ありますが、流路が曲がりくねり、人家が川に接近し浴道がないため、大勢の歩行には適せず、また暗渠部分もあるため、省略しました。東京経済大学のキャンパスにも湧水のある新次郎池や緑の回廊と呼ばれる見どころもありましたが、今は公開中止のためパス。それでも沿道の多彩の花々、モミジなどの若葉の緑の初々しさに目を奪われつつ、最終目的地の湧き水で名高い貫井神社に到着。境内を改造中でしたが、こんこんと湧く水を両手ですくい、塗り立ての赤い橋を入れての記念撮影。思い返せば、関喜一郎さんは「神田川下り」以来のカメラマンです。

武蔵小金井駅まで、まだまだ歩けそうでしたが、無理はせず、予定通り小金井街道・貫井大橋で解散し、路線バスを利用しました。

感謝

4 月例会で 3,000 円のご寄付をいただきました。感謝して報告いたします。

おわび

事務上の不手際で WHO リポート 4 号が一部発送できませんでした。お詫びいたします。ごめんなさい。(吉田明弘)

★★もしも「もう WHO は卒業」と思っておられても、リポートの送付は断りにくいと思われる方がおられましたら、遠慮なくお申し出ください。また、メール通信を希望される方も、ご連絡ください。